

エヌ・デーソフトウェア株式会社

NDソフト アスリートクラブ 〈陸上競技・駅伝〉

令和5年度、11月に開催された東日本実業団駅伝で12位となり、3年ぶりのニューイヤー駅伝出場権を獲得し、2024年元旦に群馬路を駆け抜けました。

そして、ニューイヤー駅伝では、41チーム中32位と過去最高順位を更新し、チームとして大きく前進した結果となりました。

個人競技では、10月開催の鹿児島国体で青野朱李が女子300mを大会新記録で優勝（2連覇）、全国障害者スポーツ大会で戸田夏輝が男子800m・1500m（大会新記録）で2冠を達成。また竹内竜真が5月にカナダで行われたオタワマラソンで日本人トップの7位入賞、12月に山口県で行われた防府マラソンで3位入賞と国内外問わず、マラソン競技で結果を残しました。

今年度は東日本実業団駅伝10位以内、さらにニューイヤー駅伝最高順位の更新、個々の目標達成に向けて、より一層練習に励んでいきます。

私たちの活動を通して、山形県の皆様が陸上競技に関心を持ち、競技者の記録向上に繋がるよう活動していきます。今後ともご支援のほどよろしくお願いいたします。



株式会社置環

スキー部

令和5年度の目標も引き続き「国スポ優勝・入賞」を掲げ活動をしてきました。

選手構成はいずれも男子で、アルペン2名（佐藤慎太郎、三上大我）、ジャンプ2名（齋藤康哲、島貫寛基）の4名で取り組みました。

特に、令和5年度の冬季国スポは、地元山形での開催であることから、より一層活動を強めてまいりました。

その結果、やまがた雪未来国スポの成年Bジャイアントスラロームでは佐藤慎太郎が優勝という輝かしい成績を収めることができました。また、成年Aジャイアントスラロームでも三上大我が3位（表彰台）となり、目標を達成することができました。

成年Bスペシャルジャンプに出場した齋藤康哲は19位、島貫寛基が21位。成年Bノルディックコンバインドにも出場した島貫寛基は14位という結果で、こちらは惜しくも年度目標には届きませんでした。

佐藤慎太郎はアジアを中心としたファーイーストカップの大回転でのランキングで1位の結果を残し、ワールドカップの出場権を獲得しました。さらなる活躍を期待しています。

また、三上大我は全日本選手権のスラローム競技で3位の結果を残しました。

以前、選手として活躍した清野崇悠は令和5年度も全日本のアルペンコーチとしてヨーロッパを主体としたワールドカップ、世界ジュニア選手権に派遣され、コーチとして活動しております。

令和6年度も目標を達することができるように努力し、怪我をせず1年間活動できる強い選手を目指し、弊社で経営しておりますココロとカラダをリカバリーする蔵王坊平「高原ゆ」を拠点にトレーニングに励みます。

また、地域貢献の一環として地元高校スキー部のアルペン競技の指導を継続して行っており、今季は国スポ6位入賞の結果を残すことができました。

最後になりますが、当協議会の皆さまからの温かいご声援とご支援を賜りましたことに、心より感謝申し上げます。



株式会社きらやか銀行

高橋宗成選手

〈ラグビー〉

2023年度山形県成年男子ラグビーフットボールチームは「東北総体優勝」、「かごしま国体 決勝トーナメント進出」を目標に活動して参りました。今年度は5月に埼玉県熊谷市にて東日本クラブセブンズが開催され、シーズンの序盤から関東の強豪チームと試合経験を踏むことができました。

その後、7月には八幡平市で開催された東北セブンズ大会では優勝。大学生をはじめとする新メンバーの活躍も光り、東北総体に向けて大きな自信と経験となりました。

8月、ターゲットとしていた東北総体がラグビーワールドカップ2019でも使用された釜石鵜住居復興スタジアムで開催されました。

予選リーグ初戦は宮城県。試合序盤からゲームを支配し、スピードある多彩な攻撃で4トライをスコア。28-7で完勝しました。

予選リーグ2戦目は岩手県。経験豊かで、力強い選手を揃えた相手に苦戦したものの、チーム一体となった激しいディフェンスにより相手攻撃を1トライに抑え、14-7で勝利。予選リーグ首位で決勝に駒を進めました。

決勝は青森県。主要メンバーは東北地区大学ラグビーリーグで優勝、全国大学選手権に連続出場している八戸学院大学の選手で構成されているフレッシュなチームです。前半、相手の隙をついてトライをスコア。5-0で折り返します。

後半は相手のプレッシャーを受け続けながらもなんとか魂のタックルでピンチを脱出し続けてきましたが、ラストワンプレーでこぼれ球を拾われ独走を許しトライを献上。ゴールキックも決められノーサイド。5-7で悔やんでも悔やみきれない敗退となりました。

最後まで何が起こるか分からない。そのことを改めて実感する経験となりました。この経験を決して無駄にすることなく、東北制覇への糧としてチーム一丸となり精進していきます。



株式会社きらやか銀行

B-net/yamagata

<硬式野球部>

B-net/yamagataは2023年1月に山形市唯一の社会人野球クラブチームとして設立しました。

社会人になっても硬式野球を続けたいという野球人の受け皿と山形の野球レベル向上を目的に広くメンバーを募り、きらやか銀行野球部に在籍していた選手及びスタッフを中心に立ち上げスタートしました。

初年度である2023年は都市対抗野球県予選で初出場・初優勝し、続く都市対抗野球東北二次予選では計5試合戦い、企業チーム相手には勝てなかったものの、対戦したクラブチーム3試合は勝利することができました。

都市対抗野球二次予選では、石川剛投手（きらやか銀行所属）が10年ぶりに公式戦のマウンドに立ち、全試合先発出場。活躍が評価され、都市対抗野球東北二次予選 大会特別賞を受賞しました。

目標としていた全日本クラブ選手権には出場できませんでしたが、東北クラブカップ大会では準優勝し、三浦泰志投手（きらやか銀行グループ会社所属）が敢闘賞を受賞しました。

来年度は野球で結果を残すだけでなく、CSR（地域貢献活動）も更に精力的に行い、地域密着のチームとして、より多くの方々から応援されるよう日々取り組んでいく所存です。

山形という地域の皆さまから支えて頂き活動するB-net/yamagataは来年度も野球を通して山形を盛り上げ恩返しできるよう邁進致します。

是非、引き続き応援をどうぞよろしくお願い致します。



社会医療法人公徳会

佐藤病院軟式野球部

日頃より公徳会佐藤病院野球部へのご支援、ご指導をいただき、心より感謝申し上げます。

令和5年度シーズンは、厳しい戦いの中、各山形県予選会で大会11連覇を達成し、主要3大会すべての全国大会へ出場することができました。

全国大会では目標としている上位進出はなりませんでした。全国の強豪チームと競り合い、互角に戦えるという自信と、翌シーズンへの課題、目標が明確となった試合となりました。多くの経験とともに、悔しさやもどかしさを次のステージへ繋げられるよう、これからも精進して参ります。

最後となりますが、山形県代表としての誇りと日頃の感謝の意を1球1球にぶつけ、令和6年度シーズンも最後まで駆け抜けて参ります。山形県の皆様、地域の皆様、公徳会職員の皆様とともに軟式野球の頂点を目指します。応援宜しくお願い致します。



斎藤農機製作所 剣道部

今年は新型コロナの影響も無くなり、例年通り大会が行われました。

5月酒田市体育大会優勝、6月国民スポーツ大会剣道県予選会、7月山形県剣道大会、9月全日本実業団大会がありました。特に全日本実業団剣道大会は昨年まで新型コロナの影響で参加できなく4年ぶりの参加になりましたが、今までの基本稽古、基礎トレーニングの成果が出て予想以上の力を発揮することが出来ました。

未だに面マスク、またはフェイスマスクが義務付けられていますが、今年から通常通りの活動ができるようになりました。

また、新たに1名メンバーが入り、部員たちのモチベーションも上がり、活気のある活動が出来たと思います。来年も今年以上に基本、体力UP、基礎UPを中心に頑張っていきたいと思います。



渋谷建設株式会社

山形クベーラ

〈バスケットボール〉

今年度は東北地域リーグ戦2位という成績を収め3月に開催される全国チャンピオンシップ大会に出場しました。

メンバーも昨年から入れ替わり今年度は試行錯誤の連続でした。うまくいかない時はミーティングを重ね昨年度を上回る結果を求めていましたが結果は初戦敗退、そう簡単にはいかないと思い知らされました。

山形国体成年男子も三二国体準決勝で敗退し本国体出場を逃しました。

胸を張っていいシーズンではと見えませんが、これもまたスポーツの醍醐味だと思います。この悔しさを忘れずに日々練習を重ね、胸を張れる成績を残せるように精進したいと思います。

今年度からステージが東北地域リーグから全国トップリーグに変わります。全国8チームの強豪のみで編成されたリーグであり、より過酷な試合が続きます。山形を代表する気持ちでトップリーグ初年度を優勝目指して頑張りたいと思います。

たくさんのご支援やご声援があることを忘れずに皆様のご期待に沿えるようトップリーグも山形国体成年男子も山形県のバスケットボールのために、子供たちのいい見本となれるように引き続き頑張りたいと思います。



株式会社でん六

男子バドミントン部

4月に行われた東北実業団選手権大会（仙台市）、準決勝まで順調に勝ち進み、昨年度同様対北都銀行戦、ダブルスを1-1イーブンとしシングル勝負へ、又もや接戦をものにできずシングルス2敗、結果1-3と落とし三年連続第3位。4年ぶり決勝進出と前回大会の雪辱を果たすことが出来ず、シングルの再強化と課題が残る大会となりました。

6月に行われた全日本実業団選手権大会（名古屋市）参加170チームと社会人大会最大の参加人数を誇る大会となります。昨年度三年連続決勝トーナメント進出中でしたが、四年ぶりの予選ブロック敗退と悔しい思いをした大会でした。今年度はその悔しさからか予選ブロックを1位通過、決勝トーナメント1回戦も勝ち切り、二年ぶり4回目のベスト32入りを果たし、目標1つ達成することができました。

また2月に行われた、S/Jリーグ3（立川市）では今年度昇格枠は優勝チーム1枠のみと厳しい戦いに臨む事となり、その中予選ブロックを1位通過、昇格決定戦へ、準決勝まで何とか勝ち進み対SMASH SPIRIT（北海道）戦ダブルスを1-1のイーブンとしシングル勝負へ、ここでも接戦をものにできず、結果第3位、今年度は昇格を果たすことが出来ませんでした。今後はシングルの再強化し来年度は昇格できるよう取り組んで参ります。

最後に山形県企業スポーツ振興協議会の皆様をはじめ多くの関係者から温かいご声援、ご支援を頂きまして深く感謝申し上げますと共に今後とも引き続きご指導、ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。



株式会社プレステージ・インターナショナル アランマーレ山形 〈バレーボール〉

2023年10月より、2023-24V.LEAGUE DIVISION1が開幕しました。創設9年目となる本シーズンはV1リーグの高さやパワーに圧倒され0勝、リーグ最下位と厳しい結果になりました。しかし、試合を重ねるごとに高いフィジカルと技術力を持つ選手を有する相手に競り合う展開も見られました。戦績以上にレベルアップを実感し、何ものにも代え難い貴重な経験を積んだシーズンとなりました。『あと1点』を取るための強化策が今後の焦点になると思います。得点力のある選手の育成、または外国人選手の補強などで、この1点を勝ち取る強化策を練っていきたいと考えます。

2024-25シーズンからVリーグは生まれ変わり、新たなリーグ体制でスタートします。アランマーレ山形は“世界最高峰のリーグを目指す”大同生命SV.LEAGUEへの参入が決定しており、現在は戦力の強化や補強を行っています。昨シーズンの反省や改善点を生かす方向で進め、アランマーレらしい戦力強化をしていくのが大きなチャレンジだと考えています。

ホームゲームも3週から11週と大幅に増えるので、多くの県民の皆さまと一緒に戦っていきたいと思います。引き続き、温かいご声援をよろしくお願いたします。



株式会社山形銀行

ライヤーズ

<バスケットボール>

令和5年度は、『挑戦・感謝』をスローガンに掲げ、
全国大会優勝に向け日々の練習に取り組んできました。

国民体育大会では1回戦敗退という悔しい結果となりましたが、東日本地域リーグでは総合優勝を獲得し、続く全日本社会人バスケットボールチャンピオンシップでは、練習の成果を発揮し、3位という結果を残すことができました。

今シーズンは、3名の新人選手を迎え、合計11名での活動となります。山形県企業スポーツの発展に貢献できるよう、より一層チーム力の強化を図り、国民スポーツ大会とチャンピオンシップの2冠を目指し、努力してまいります。

たくさんの方々に支えられ、日頃練習や活動ができていることに感謝し、今シーズンは結果で恩返しできるよう精進いたします。



株式会社山形銀行

五十嵐紫乃選手

〈アルペンスキー〉

令和5年度は、国民スポーツ大会冬季大会スキー競技会山形県予選会で敗退となり、勝負の厳しさを

実感したシーズンとなりました。国民スポーツ大会冬季大会スキー競技会での優勝を目標に取り組んでいただけに、勝負の舞台に立てなかったこと、結果を残して今までの感謝を伝えることが出来なかったことに自分の不甲斐なさを感じました。しかし、結果を残すことと同様に、競技への取り組み方など過程の重要性を改めて実感することが出来ました。

社会人となり銀行業務をしながら競技スキーに取り組むことができるのは、上司・先輩方のご理解・ご協力があったことであり、令和6年度は、この悔しさを支えていただいた方々に結果で恩返しすることを目標に掲げています。

一社会人として、YAMAGATAドリームキッズ卒業生として、スキーの取り組みや事業協力・支援等を通して、山形県のスキー・スポーツの活性化に貢献できるよう精進してまいります。

